

新型コロナウイルス感染症の後遺症の方々の日常を守る取組の
強化を求める意見書

新型コロナウイルス感染症の罹患者の中で、罹患後症状（いわゆる後遺症）の中でも疲労感・倦怠感を訴える方が増えている。実際に、倦怠感、呼吸困難感、集中力の低下、記憶力の低下、睡眠障害など、仕事や学業の継続が困難になる方も多いと言われている。

後遺症は、社会生活上非常に影響が大きく、例えば、子供の場合は自分から症状を訴えることが難しいため、怠けていると捉えられてしまうおそれもある。

感染拡大から3年が経過し、新型コロナへの向き合い方も変わる中で、後遺症に悩み生活に大きな影響を受けている方々の治療等の確立は大変に重要な課題である。

よって、国におかれては、新型コロナウイルス感染症の後遺症の方々に寄り添い、一人一人の日常を守るために、次の事項につき積極的に取り組むことを求める。

- 1 疲労感・倦怠感を主訴とした新型コロナウイルス感染症の後遺症の発生状況について、非常に近い症状の筋痛性脳脊髄炎／慢性疲労症候群（ME／CFS）との関連や一部医療機関で実施されているBスポット療法（EAT・上咽頭擦過療法）の効果等の検証を含めた、実態調査や研究を推進すること。
- 2 自己免疫疾患との関連など、新型コロナウイルス感染症による後遺症の原因究明と新たな治療法の確立に向けた研究予算を確保すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

高知県議会議長 明 神 健 夫

財 務 大 臣 }
厚生労働大臣 } 様